大門だより

荒川区立大門小学校
校 長 神田 やよい
令和 8年 10月 1日

大門小ホームページ 荒川区立大門小学校 検索

《本校の教育目標》 考える子 やさしい子 たくましい子

「学びが深まる秋」

9月は台風の影響などで雨の日が続き、外で思い切り体を動かせない日もありましたが、子供たちは教室や体育館で友達と関わりながら、学びや遊びを楽しんでいました。笑顔や元気な声、夢中になって活動する姿は、私たち教職員の大きな励みです。10月も心も体も動かしながら、充実した学校生活を送ることを願っています。

大門小学校は、「自ら課題をみつけ、思いやりをもち、仲間と協働しながら、力強く未来を切り拓く力を育む学校」を目標に掲げています。そのためにも、子供たちが自発的に動き、感じ、考える学びを大切にしていきたいと考えています。

10月は読書月間として、様々な本と出会う機会を設けています。単に本を読むだけでなく、読んだ内容について感想を話し合ったり、登場人物の気持ちを想像したりすることで、読書体験を深めていきます。

例えば、「くじらぐも」の学習では、登場人物たちが「みんなで手をつないで、まるいわになってジャンプする」場面を疑似体験します。「天までとどけ、一、二、三。」と声を出しながら、クラスの仲間と手をつないでジャンプしてみます。「もっとたかく。もっとたかく。」と、くじらの応援も声に出して表現します。この活動を通して、登場人物の気持ちの高まりや期待を実感します。体を動かして登場人物の行動を表現することで、その心情や願いをより深く理解できます。

これは、他の教科でも同じです。体育で体を動かして課題に気付く、理科や生活科で実際に触れて疑問を持つ、特別活動で協力の大切さを学ぶなど、心と体を動かすことは考えるきっかけになります。9月の「大門まつり」でも、1～6年生が工夫してお店を作り、特に6年生は企画から運営まで主体的に取り組みました。教室の中だけでは得られない貴重な学びがありました。

人は頭で覚えた知識だけでは忘れやすいものですが、「楽しかった」「仲間と協力できた」といった感情と印象に残る体験は、心の中に深く刻まれます。実際に生活科や社会科の見学、職人教室などを通じて、目で見て触れ、体験しながら学ぶことは、子供たちの理解をより一層深めます。心が動き、体が動き、そして頭が動く。この三つが連動することで、子供たちの学びはより確かなものとなり、成長の土台となるのです。

これから、地区連合運動会や持久走記録会、学習発表会など、子供たちが力を発揮する行事が続きます。結果だけでなく、友達と考え、体を動かし、挑戦や失敗を重ねながら成長する「過程」を大切にしていきます。こうした温かな学びを支えてくださる保護者・地域の皆様に心より感謝申し上げますとともに、今後とも一層の御支援を賜りますようお願いいたします。